

北っ子 敷島北小学校だより

令和7年9月26日 文責 学校長 増坪広夫

運動会の練習がんばってます

9月19日（金）から運動会の特別日課がスタートしました。この特別日課では、毎日1～2時間くらい運動会に関する授業があります。残暑がまだまだ続いていますが、子供たちは汗だくになって練習に取り組んでいます。この時期は保護者にとっても毎日の洗濯や体力のつく食事の支度など家庭の負担も大きくなりがちですが、お子さんが元気に練習に取り組めるように、ご家庭からも励ましの一声をお願いします。今年度の運動会ですが、甲斐市ではどこの小学校も10月4日（土）に半日での開催となっています。この運動会で子どもたちに「つけさせたい力」ですが、本校では3項目ある内容を大まかに言うと次の2点になります。

- ◆ 運動に親しむ態度を養い、集団規律とフェアプレー精神の醸成を図る
- ◆ 集団活動を通して豊かな人間関係を築き、自分の役割に責任を持つなど自主性・自発性を高める

クラスまたは学年で取り組む運動会に向けた活動の中でこそ、こうした内容は子供たちの中で鍛えられていきます。本校の子供たちが運動会の取り組みを通して、様々な場面で活躍してくれることを願っています。

経験が人を育てる

以前、学校集会でも話したことですが、高学年になると運動会を支える係として「色組リーダー」「全校種目リーダー」などの役割を決めます。その時に、どちらかという表に立って行動するタイプではない子が、運動会の花形「応援リーダー」に立候補したことがありました。人前に立ってみんなを引っ張っていくタイプとは全く縁遠い印象を持った子だったので本当に驚きました。が周囲の心配をよそに、その子はこれまで聞いたこともないような大きな声で応援団の中心となって活躍し、卒業まで様々な場面で積極的に活動する姿がそこにはありました。

「学級の中にリーダーを固定してはならない」というのは、こうした事実がどこの学級でも起こりうるからに他なりません。文化・スポーツ・レクリエーションなど様々な場面で、多くの子供たちがリーダーとして認められ成長するチャンスがあるのです。リーダーとしての立ち位置は決して固定せずに、「誰でもなれる」ことが絶対条件のような気がします。特に小学校の活動では、そうあるべきだと感じます。

「他人や過去」は変えることはできません。変えることができるのは「自分と未来」です。「こうなれたらいいなあ」という想いを描き続けていくことが大切なのです。大きなことはできなくていいのです。

でも時には「恥ずかしさ」や「自信のなさ」を乗り越えて、今までの自分の殻を破る時が無くってはなりません。

そのためには、自分自身を成長させる様な場に自らを立たせることが必要になってきます。運動会に限らず学校行事を通して、クラスの中や学年の中で自分の殻を打ち破って活躍する子が出てくることを期待しています。



自分の未来は自分で決める

9月5日（金）に学級役員の任命式を行いました。これは3年生以上の各学級委員長に任命書を渡すセレモニーです。本校では学級役員のほとんどが「立候補」で決まります。この学級役員ですが、高学年にもなると委員会やたてわり活動で中心的な役割を担うのはもちろんのこと、「1年生を迎える会」「縦割り活動」「運動会」など6年生が中心となって運営をしていくことになります。また、クラスの代表委員として「代表委員会」にも出席します。

私が担任をしていた頃、学級役員決めではこんな話をしました。

「やってみよう」と考えている人はもちろんですが「できるかな」と迷っている人は、ぜひこの機会に立候補してみましょう。先生が責任を持って必ずサポートします。でも代表委員会などの話し合いは休み時間に行われるので「遊べないのはイヤだ」と思う人は絶対に立候補しないでください。そういう人には先生がいくら応援してサポートしてもうまくいかないからです。



本校の学級役員決めにも、多くの子が立候補を表明したと思います。中には、その役職に就くことができなかった子もいたと思いますが「自らを成長させる場に立たせようと一歩を踏み出した」全ての子に賞賛の拍手をおくりたいと思います。

自信は「やってみて」身につくもの

とはいえ子どもたちの中には学級代表やリーダーになることに抵抗がある子は少なくありません。その多くは「自信がない」「自分にはむり」と考えてしまうようです。ただ「自信がないこと」は知性が伸びている証で、未来を予想し不安になることは正常なことだと思います。むしろ「はじめてやる仕事」に、やる前から「できる」という自信をもっていることのほうがヤバイような気がします。

よく「自信がついたらやる」という子も中にはいますが、自分の経験になりますが「自信がついてからやる」と場面はなかなか訪れることはありませんでした。むしろ「自信というものは、やってみて初めて身につくもの」だと感じています。

しかし「不安」というものは誰もが持つものであり、私自身も「悩みながら行動している」一人です。



この「不安」ですが「やりたいという欲求」より大きければ「やらない」選択をするのですが、この「不安」は実は小さくすることができるのです。それは「不安」の要素を細かく分析することです。難しく言うと中学校で学ぶ「因数分解」に似ています。漠然とした「大きな不安」も、「小さな不安」が集まったものであり、その一つ一つを自分でよく考え、解決できるものにすることで「不安」をより小さくすることができるのです。

このように「不安」が小さくなれば「やりたいという欲求」の方が大きくなり「行動する勇気を持てる」ようになります。また、もしも上手くいかなかったとしても、この「うまくいかなかった経験」は、後の人生で必ず役に立つと思います。「やってみる」ことこそが、この時期、大事なことのようと思います。

